

乳腺症の治療は血行障害の改善で

Q 四十五歳、女性。四年前、左の乳房にしこりが見つかり、乳せん症との診断を受けました。特に治療の必要はないが、まれにがん化することもあるから定期検診は必ず受けるようにと言われました。毎年超音波の検診をしていますが憂うつで仕方ありません。漢方に乳せん症に効く薬はありますか。

A 我が国でも食生活の欧米化などの原因のためか乳がんが増えており、人間ドックなどの検診に乳房の検査が含まれることが一般的になっています。また自己診断としての乳房の触診も啓蒙され、「気になる」といって外来を受診する方が増えている。乳房の超音波所見で悪性のがんと良性の乳せん症との鑑別はかなり容易になってい

る。乳せん症は放置しても体に害を及ぼすことが少ないが、乳房が張って痛みが強い場合はホルモン療法、がんとの鑑別が難しい場合は手術も考慮される。

漢方医学では乳せん症は瘀血（おけつ）すなわち微小循環障害（血行障害）による場合と、気滞（きたい）すなわち気のめぐりが悪い状態によって引き起こされるとされる。

月経周期に伴ってしこりの大きさが変化する場合は、瘀血を治す桂枝茯苓丸（けいしぶくりょうがん）を中心にした処方が多い。

張った感じや痛みを伴う場合は、気滞を治す半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう）、二陳湯（にちんとう）、十六味流気飲（じゅうろくみりゅうきいん）などが勧められる。